



# 浄東方

閉伊川紀行



山々を

駆け上る

春の息吹



閉伊川中流・夏屋川上流域

39° 42'27.2"N 141° 34'25.6"E

閉伊川下流・長沢川桜づつみ

39° 37'07.7"N 141° 54'23.0"E

たとえば鳥になって空を飛ぶ。  
眼下に広がるのは岩手の県土を  
覆う北上高地の山々だ。スケー  
ル感は圧巻としか言いようがな  
い。力いっぱい羽ばたいてぐんぐ  
ん高度を上げ、遙か空の高みに  
達しても、大地を覆い尽くす山々  
の連なりは視界の外へと広がり  
続ける。まさに「無数の山々が  
ひしめく」大地である。

冬を迎えると、この山々は雪  
を抱き、長い眠りにつく。目覚  
めは遅く、里で桜が咲き始めて  
も山々は沈黙を続ける。しかし、  
分水嶺の区界峠を源として、山  
塊を貫いて宮古湾を目指す閉伊  
川に春が訪れると山は一変する。  
春は下流からはじまる。宮古で  
芽吹いた春はまるで遡上する鮭  
のように閉伊川本流へ、支流へ  
と新しい季節を運んでいく。

その先にはあるのは躍動する  
春の姿だ。山肌を深く刻む谷筋  
から尾根へ一気に上っていく緑。  
春は瑞々しいまでの緑の息吹を  
大きく吐きながら北上高地の  
山々を駆け抜けていくのである。

川を渡り、  
山を縫って進む

閉伊川沿いにはふたつの陸路が走っている。一本は盛岡と宮古を結ぶ国道106号線。閉伊川を旅する上での大動脈とも呼ぶべき道である。そしてもう一本が百周年を迎えるJR山田線である。明治期に構想が始まり、大規模工事の末に運行が始まったのは大正十二年。以来、内陸と沿岸を結ぶ鉄路として沿線の暮らしを支えてきた。

車が生活の中心となったことで山田線にかつての賑わいは見られない。しかし、その名は多くの鉄道ファンを魅了し続けている。「日本最高の秘境線」「東北随一の山岳秘境線」「超絶景のローカル線」などと、ファンからの賛美の声は止まることはない。盛岡―宮古間は閉伊川と同じ約九十キロメートル。その間、途切れることなく北上高地の絶景が車窓に映し出される。それは大自然の奥懐へと入っていく神秘的な体験だ。

ゴトゴトと愛らしい音を山々にこだませ、今日も山田線は走っている。



閉伊川下流域・JR山田線

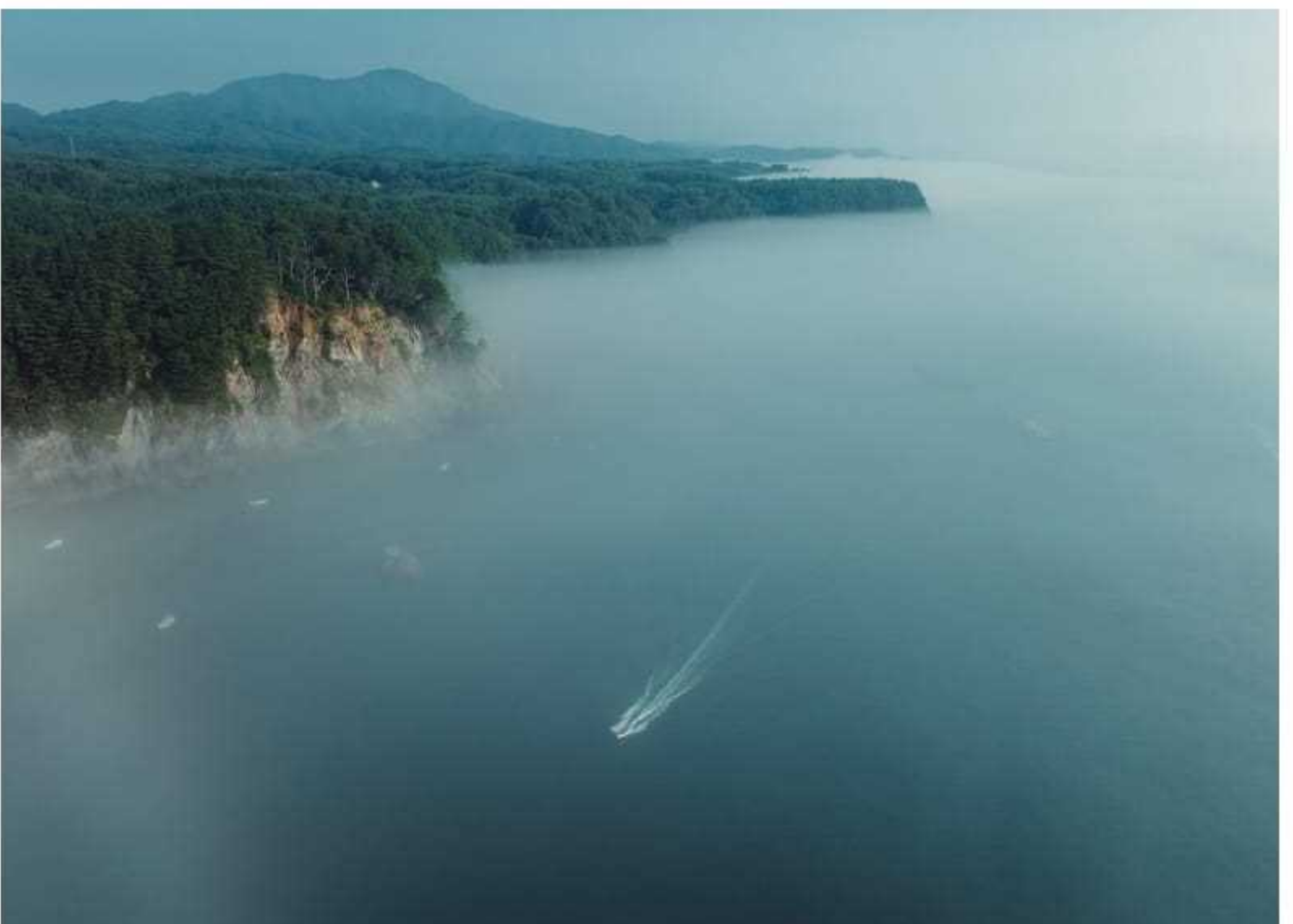
39° 35'39.3"N 141° 45'04.6"E



やませが包む

人の営みと

豊饒の海



初夏を迎えた宮古の海は清涼な青を広げ、冬の海とは異なる穏やかな表情を見せる。しかし、「やませ」がやって来るとその世界は一変する。海原を滑るようにして音もなくやって来たやませはあっという間に宮古の街全体を冷たく湿った雲ですっぽりと閉じ込めてしまう。

北海道沖で発達したオホーツク海高気圧が作り出す冷たく湿った風が海面温度の異なる親潮と黒潮の境目を通り、三陸海岸に吹き付ける。これがやませのメカニズムだが、やませに包まれ、驟雨が降り始めたと思えば、一瞬にして雲が消えて晴れ上がることもあれば、視界を遮

る深い濃霧に数日間に渡って閉ざされることもある。こうした現象が天気予報を無視して発生するのだから、体感としてのやませは極めて神秘的だ。

歴史を紐解くと、東北地方の飢饉の多くはやませが原因だった。やませが多く発生する夏は冷夏となって農作物から稔りを奪った。しかし、その一方で黒潮と親潮がぶつかる三陸の海域はプランクトンを大量に生み出し、世界有数の漁場を作り出した。つまり、やませは三陸の豊かさの象徴でもある。今日もやませが吹く海に向かって漁船が出航している。漁師たちは深い霧の先に豊饒の海を見つける。

## 陸中海岸・重茂半島

39° 34'40.0"N 142° 01'39.9"E



夏の夕暮れに  
懐かしい  
ご先祖の声を聞く



閑伊川下流域・宮古市街  
39° 38'34.5"N 141° 57'07.2"E

宮古の八月は「松明かし」から始まる。夕暮れの訪れを合図に家の前に出て来た人々は小さな松の木片に火をつける。めらめらと赤い炎を上げて燃える松と通りにたゆたう白い煙。ここに加わるのが色とりどりの火花。子供たちが手にした火花が松の炎とともに夏の宮古の夜空を照らし、先祖の霊を迎える。

盆行事として迎え火・送り火を行う地域は全国各地にあるが、宮古の松明かしは独特で、八月の頭から終わりまで繰り返す（合計にすると八回ほど）行われる。また、火花が付き物なのも宮古ならではの。この風習が少なくとも江戸時代から連綿と受け継がれてきた。さらには盆を迎えると、青い実のついた栗の枝、果物、菓子、鏡天、お茶などで賑やかに飾り付けた盆棚を用意し、十三日の夕方には先祖を迎えるために提灯を手にも皆で菩提寺へと向かう。そして、このお盆以降も松明かしが続くのである。火花や盆棚の色彩の鮮やかさからとこか陽気にも見える宮古の盆行事だが、先祖や亡き人への深い思慕が人々の胸に宿っているのである。

松明かしの最後は八月三十一日。この火が静かに消えると、宮古の短い夏は終わり、秋を深めていく。





**21 源兵衛平高原キャンプ場**  
北上山地の真ただ中にあるキャンプ場。大自然しかないのが魅力●宮古市刈屋 9-98-6



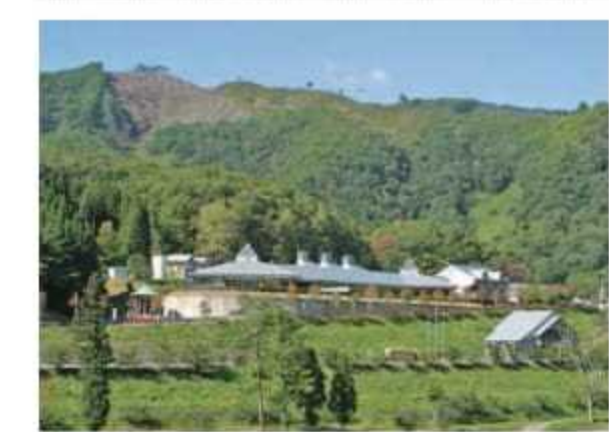
**22 うみどり公園 (旧市役所跡地)**  
すべての人が楽しめるインクルーシブ遊具を備えた公園●宮古市新川町 2-1



**23 青の洞窟**  
さっぱ船で行く神秘の世界。洞窟内に広がるのは、エメラルドグリーンの世界。三陸の海の美しさは訪れた人の胸を打つ



**24 潮吹穴**  
太平洋に面した海食洞から噴き出す海水は高さ 30m にも達することも。国指定天然記念物にも指定されている



**25 リバーパークにいさと**  
閉伊川を望む総合レクリエーションパーク。宿泊、キャンプなど多彩な楽しみ●宮古市茂市第 8 地割 53 ●0193-72-3800



**26 腹帯の混在岩**  
約 1 億 5000 年前に地殻の大移動で生まれた北部北上山地の大地の歴史を伝える岩石が観察できる



**27 宮古うみねこ丸**  
宮古市遊覧船「宮古うみねこ丸」は、名勝「浄土ヶ浜」や三陸ジオパークの美しい景観を巡る新しい遊覧船●0193-65-8856



**28 鮎ヶ崎灯台**  
本州最東端の鮎ヶ崎にある灯台。映画のモチーフになったことでも知られる。徒歩でのみアクセス可能なプチ秘境

**29 鳥取春陽生家**  
「籠の鳥」で知られる作曲家、鳥取春陽の生家。懐メロファンにおすすめ●宮古市刈屋第 9 地割 74 ●0193-72-3600

**30 新里生涯学習センター 玄翁館**  
牧庵鞭牛、鳥取春陽など、郷土の偉人を伝える●宮古市茂市 5-2 ●0193-72-2019

**31 道の駅 みやこ シートピアなあと**  
特産品コーナー、レストランなど宮古の魅力が満載●宮古市臨港通 1-20 ●0193-71-3100

**32 旧たろう観光ホテル**  
3.11 の東日本大震災の記憶をつむぐ震災遺構。津波の驚異を今に伝える●宮古市田老野原 80 ●0193-77-3305

岩手県東部の大部分を占める  
北上高地。

それは青森県八戸から宮城県  
牡鹿半島に及ぶ南北約二百五十  
キロ、東西最大八十キロの紡錘型  
を成した山地である。そこには、  
古生層、中生層からなる標高約  
一千メートルの山々が、無数に  
ひしめく。

この山塊を押し分け、谷を刻  
みながら流れるのが岩手を代表  
する河川・閉伊川である。

盛岡の東、区界高原に源流を持  
ち、約百キロの旅を経て陸中宮  
古へと注ぐこの川は、長い歴史  
のなかで人の暮らしに寄り添っ  
てきた。それは二十一世紀を迎  
えた今も変わることがない。と  
きに激しく飛沫をあげ、ときに  
滔々と流れる水脈を辿り、風土を  
感じながら東へ東へと向かう旅。  
その先で待つのは、「さながら極  
楽浄土のごとし」と謳われた現  
世の極楽である。

遙か東方で待つ極楽の浜へ、旅  
立ちのとき。

# 東方 浄土